東光寺だより

いよいよ人生100年時代を迎えて

自燃塾へのお誘い

林住期の皆さんへ

古代インドの思想が現代に生かされます。
　それは、人生を大きく四分割にして
最初の二十五年間を学生期（がくしょうき）、しゃにむに勉学に勤しみ、知識を蓄える時期）、五十歳までを家住期（かじゅうき）学生期に培ったその知識をフルに活用し、社会のため、みんなのため、家族のために一心に働く時期。それは次の林住期の基礎になるのです。それ以後七十五歳までを林住期（りんじゅうき）と称します。

自燃塾　竹炭作製部門

林住期では五十歳までに蓄えた学識経験、社会経験を基にして、（日本では定年退職後）**これからが本当の人生であるというのです。**
そういう見地から、今までの経験を十分に生かし、これからが己の本当の人生と考える人たちが、未知の分野に挑戦したり、己の特技を人に広め、また今以上に磨きをかけ、自らの人生を自由に楽しむ。一人で楽しむのではなく、仲間で活動する。それが２５年以上続いている東光寺　薬師苑自燃塾なのです。

憩いのひととき

第四期は遊行期（ゆぎょうき）といい、今まで自分を支えてきてくれた周りの人たちに感謝し人生を顧みつつ仙人のような生活をする。そういう思想なのです。定年後自分の人生に一層磨きをかけるために東光寺薬師苑を舞台にして研鑽するのが自燃塾なのです。

自然ではなく自燃（じねん）とは

　竹炭を製作するとき、資材をつめ、焚き口に燃料をつめ、火をつけると窯の温度が高くなり、資材の温度が上がってくる。炎で燃えるのではなく蒸し焼き状態で熱っせられ、徐々に真っ赤におこってくる。これを炭焼き用語で（じねん）といいます**。周りの熱気によって主体的に熱く真っ赤に燃えて活動する姿をイージしてください。薬師苑　竹炭薬師窯では　自燃という漢字をあててじねんと呼んでいます。造語です。**

東光寺の庭園のもみじも今が見頃です。

令和５年１２月１日
文責　　東光寺住職　　鷲見邦隆